

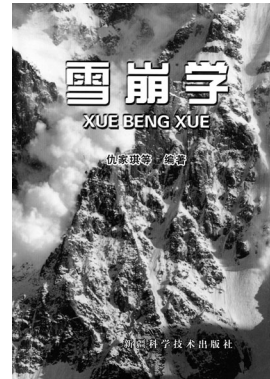
新刊紹介

雪崩学

仇家琪 編著

新疆科学技術出版社, 烏魯木齊, 中国

ISBN7-80693-753-6



中国における雪崩に関する久々の著書である(文献参照)。編著者は中国科学院新疆生態与地理研究所の仇家琪教授で、天山山脈をフィールドに長年雪崩の研究に従事された方である。退官前の早い時期から準備していたのであるが、長い年月を要し 2005 年 5 月の発行となっている。

中国で「雪崩学」という言葉が使われたのはこの著書が初めてであろう。表紙に見られるように、雪崩学を中国語読みになると Xue Beng Xue と良い響きになっている。章立てを以下に示す。

1. 雪崩学基本概念
2. 雪崩災害
3. 雪崩地形
4. 降雪および結晶
5. 積雪
6. 積雪の力学特性
7. 雪崩分類
8. 雪崩動力学
9. 雪崩特徴
10. 雪崩制御
11. 雪崩地区道路管理
12. 雪崩安全
13. 雪崩危険評価
14. 雪崩地図
15. 雪崩区画
16. 雪崩予報
17. 雪崩作用の環境生態意識
18. 雪崩観測およびその事故報告

このうち、第 6 章と第 8 章は姜逢清氏の執筆によるもので、他は仇家琪教授によるものである。雪崩に関する著書では長いブランクがあったこと

から、その後に進展した世界各地における研究成果がふんだんに盛り込まれており、仇教授の意気込みを感じさせるものとなっている。欧米や日本の文献はもちろん、我々にとってなじみのないロシアの文献も引用してある。現在、中国は経済発展がめざましく、これにともない山岳域での自動車の通行密度が高くなり、雪崩の危険性は以前よりむしろ増加しているといえる。今後、この著書が多方面で利用されることが期待される。外国人の立場として見る場合は、中国の積雪分布や災害事例などの方が興味深いところであるが、雪崩に関する最も古い文献は唐代の玄奘法師による「大唐西域記」で、天山山脈のトムール峰地区で起こった雪崩について記載されてあるとのことである。

ここで、中国の出版事情について言及しておく。紹介者の認識によれば、中国では支援が得られる場合を除いて学術書は私費出版に近い形態をとっているようである。したがってどの程度一般の流通経路にのっているのか定かではなく、この著書も仇教授から直接いただいたものである。定価は 40 元となっている。入手されたい方は紹介者までご連絡下さい。

文 献

- 胡 汝驥・姜 逢清, 1989: 中国天山雪崩与治理. 北京, 人民交通出版社, 167pp.
 王 彦龍, 1992: 中国雪崩研究. 北京, 海洋出版社, 244pp.
 王 彦龍, 1993: 川藏公路沿線雪害与防治. 北京, 海洋出版社, 221pp.

(防災科学技術研究所

雪氷防災研究センター新庄支所 阿部 修)

(2007 年 11 月 27 日受付)